

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

愛知みずほ短期大学は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）にかなった人材を育成するため、以下のようにカリキュラムを編成し、実施します。

- 1)カリキュラムは「共通科目」と「専門教育科目」から構成する。
- 2)「共通科目」は全学共通であり、汎用的能力（教養・倫理観と問題解決総合能力）の礎を育成する。汎用的能力は、「共通科目」を基に、「専門教育科目」へ楔型に組み込まれた授業科目とキャリア教育によって、育成を達成する。
- 3)「共通科目」は技法知科目群、学問知科目群、身体文化科目群、社会的教育科目群及び連携開設科目群で構成する。
- 4)「専門教育科目」は職業人としての専門性（専門知識・技術と実践応用）を育成する。
- 5)「専門教育科目」では職業人を育成するため、学科・専攻コースごとに授業科目を基礎から実践応用へと各専攻の専門性を重視して系統的に配置する。
- 6)生活学科においては、食物栄養専攻の栄養士及び栄養教諭（二種免許状）、生活文化専攻養護教諭コースの養護教諭（二種免許状）、現代幼児教育学科においては、保育士と幼稚園教諭（二種免許状）の各養成施設としてのカリキュラムを編成し、生活学科生活文化専攻オフィス総合コースにおいては情報処理士をはじめ各種民間資格取得のためのカリキュラムをそれぞれ編成し、実施する。
- 7)学科・専攻・コースごとに、本学の特色を活かして卒業要件科目、資格取得のための必修科目と選択科目から構成する。生活学科の食物栄養専攻と生活文化専攻養護教諭コース、現代幼児教育学科の科目構成は各資格の法令・規則・規定を基本に編成する。なお、生活学科生活文化専攻オフィス総合コースは、民間の機関が定めている資格に関する規定を基に編成する。
- 8)履修する科目の到達目標は学位授与方針との関係を明確に示し、履修の意義を示す。
- 9)学内外の実習、実験、演習をはじめその他多くの科目において、主体的・対話的で深い学びと協働性を重視した実践プログラムを編成する。
- 10)学修成果は定期試験結果による DP 達成度と自己の振り返りおよび外部テスト、各種資格取得率（全国的に実施・公表される結果）で確認する。

共通科目編成方針

共通科目においては、本学の建学の精神である「科学的思考」をベースに、知識や技能の習得のみならず、実生活や実社会において、その知識・技能を活用して、主体的・協働的に問題解決にあたることができる力を養うことを目指しています。

各学科・専攻・コース別カリキュラム・ポリシー

生活学科		現代幼児教育学科
生活文化専攻	食物栄養専攻	<p>本学科は、建学の精神を踏まえ、広い視野と豊かな人間性を培うために「児童文化」「子どもの質問に答える理科」に加え、表現技術を磨くために「創造活動Ⅰ」「創造活動Ⅱ」「子どもの遊びと健康Ⅰ」「子どもの遊びと健康Ⅱ」を設定する。</p> <p>また、「保育・幼児教育を巡る現代的課題を理解し、豊かな人間力と確かな専門的力量を身につけた保育士・幼稚園教諭」を育成するため、指定保育士養成施設指定基準、教育職員免許法及び同施行規則に基づきカリキュラムを編成する。</p> <p>保育・幼児教育の意義・目的を学ぶために、「保育原理」「教育基礎論」「子ども家庭福祉」を、また、保育の対象を理解するために「保育の心理学」「特別支援教育・保育」を設定する。</p> <p>次に、保育・幼児教育の現代的意義を理解するために、共通科目に「みずほゼミⅠ」「みずほゼミⅡ」「みずほゼミⅢ」「みずほゼミⅣ」「EDS 入門」、専門科目に「子育て支援」「保育実践」を設定する。</p> <p>併せて、保育・幼児教育の内容・方法を具体化する「保育内容総論」「子ども家庭支援の心理学」を、教育者としてのスキル向上のため「幼児理解の理論と教育相談」を設定する。</p> <p>さらに、子どもの表現力を指導する力を高めるため、「保育内容指導法（健康）」「保育内容指導法（人間関係）」「保育内容指導法（環境）」「保育内容指導法（言葉）」「保育内容指導法（表現Ⅰ）」「保育内容指導法（表現Ⅱ）」を演習形式で設定する。</p> <p>実践力を育成するため、1年次には保育所における「保育実習Ⅰ（保育所）」、2年次には施設における「保育実習Ⅰ（施設）」、幼稚園における「教育実習」と「保育・教職実践演習（幼稚園）」「保育実習Ⅱ（保育所）」を設定している。</p> <p>各授業科目において、教育効果を高めるため、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p>
<p>本専攻は、科学的知識・技術の習得により、自立した社会人として社会に貢献できる女性の育成を目指してカリキュラムを編成する。人間生活を総括的に考察する「生活文化論」「人間関係論」「生活経営論」「食品衛生学」「衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）」「精神保健」を必修科目に設定する。</p> <p>また、各授業科目において、教育効果を高めるため、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p>	<p>本専攻は、栄養士としての専門性を育成するため、栄養士法施行規則の教育内容である「社会生活の健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」の区分に基づき、本学のディプロマ・ポリシーを踏まえて編成する。</p> <p>専門教育科目は、知識が無理なく修得できるよう、内容を発展させながら設定する。1年次前期に「栄養学総論」「食品学総論」など基本的な内容を理解する科目、1年次後期には「栄養学各論」「食品学各論（食品加工学を含む。）」など、より深く学ぶための科目で編成する。1年次にはそのほか「解剖・生理学」「栄養生理学」を設定し、栄養と人体を総合的に学ぶことができるように編成する。2年次には1年次の授業を基本として、さらに理解を深めるために実習や実験実習を設定する。</p> <p>栄養士にとって実践力が必要となる「給食の運営」の区分においては、1年次前期の「調理学」で調理の基礎的な知識、「調理実習」については1年次に日本料理と中華料理、2年次前期に西洋料理を設定して調理の技術を育成する。また「給食計画論」「給食実務論」で給食業務の基礎を学び、「給食管理実習（学内）」および「給食管理実習（校外）」へと体系化している。</p> <p>また、通年で開講する「みずほゼミⅠ」「みずほゼミⅡ」「みずほゼミⅢ」「みずほゼミⅣ」では、さまざまなテーマに合わせたグループ活動や実習・演習・講義を取り入れ、栄養士としての自律性や実践力、社会人としての倫理観を養う。</p> <p>さらに、SDGsを食の視点から考える「食品加工学実習」、食物アレルギーを理解するための「食物アレルギー（対応食を含む。）」など、現代の食の問題に対応するための科目を設定する。</p> <p>各授業科目において、教育効果を高めるため、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。</p>	
<p>養護教諭コース</p> <p>本コースは、「身近な科学」を基礎に、養護教諭の専門性を育成するため、教育職員免許法及び同施行規則第9条「養護に関する科目」に基づきカリキュラム編成する。</p> <p>養護教諭の職務及び学校保健を理解するために「学校保健（学校安全を含む。）」「養護概説」「健康相談活動の理論及び方法」「精神保健」などを設定する。これらを発展させた科目として、2年次では「養護実践演習」を、子どもの食・栄養の視点から「栄養学（食品学を含む。）」、予防医学の視点から「解剖・生理学」「衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）」「薬理概論」を設定する。さらに、「小児保健」で学童期、思春期など発達段階に合わせた疾病と予防や心身の問題を取り上げる。学校での看護実践の基礎知識、技術の習得のため「看護概論」「看護技術の基礎」を設定する。学校での救急処置の方法を習得するとともに、健康問題の解決に臨めるよう指導する力の育成は「学校救急看護Ⅰ」を踏まえ「学校救急看護Ⅱ」で講義・演習を行う。養護教諭としての総合的な実践力は、学校現場での「養護実習」と医療機関での「臨床実習」で培うなど、専門教育科目を通して、養護教諭の活動を支える教育観、子ども観、健康観を育成する。</p>	<p>オフィス総合コース</p> <p>本コースは、高度な情報化社会において、職業人として求められる幅広い教養と豊かな人間性を育成し、多様化するビジネス社会で活躍できる実務力を習得する講義および演習によりカリキュラムを編成する。資格取得に積極的にチャレンジする意欲・活力を育成するため、共通科目に「みずほゼミⅠ」「みずほゼミⅡ」「みずほゼミⅢ」「みずほゼミⅣ」を設定する。</p> <p>また、専門教育科目の「情報社会論」ではビジネス著作権検定、「文書デザイン」では文書デザイン検定および日本語ワープロ検定、「情報活用演習（プレゼンテーション）」ではプレゼンテーション作成検定の受験を促し、「情報リテラシー」「Web デザイン演習」「身近な統計学」では情報処理士、「秘書実務Ⅰ」「秘書実務Ⅱ」「秘書総論」「社会人基礎論」では秘書士の単位取得を支援する。</p> <p>さらに、社会人として自律性を身につけるために「仕事と人生」を、実践力を培うために「マーケティング実践」と「メディア実践」を設定している。</p>	